

医療崩壊をふせぐために、 産業保健活動からできること

織田 進

第62回国立病院総合医学会
(平成20年11月12日 於東京)

IRYO Vol. 63 No. 9 (561-564) 2009

要旨

医療崩壊をふせぐために、産業保健活動から何ができるかを報告する。国立大学や国立病院の独立行政法人化にともない、多くの病院で労働安全衛生法のもとで実施される産業保健活動に関心が持たれるようになったが、これまで、医療機関における産業保健活動は十分ではない。たとえば、病棟勤務の医師・看護師に対するアンケート調査では、長時間労働や交替制勤務による疲労、ストレスに関心が高く、医師の過労死・過労自殺、さらには多忙や種々のストレス等による看護師の早期退職が社会的問題となっている。そこで、医療機関におけるメンタルヘルス対策の具体例を報告する。1) 参加型職場環境改善に重点をおいたメンタルヘルス対策、2) 健康相談窓口の設置、3) 復職委員会の設置、4) 感染症対策、5) 女性労働者にかかわる対策、6) 長時間労働に対する対応等の課題の外に、医療従事者のストレスを軽減するために有効と考える新型インフルエンザ患者の対応、悪質なクレームや院内暴力への対応等早急に医療機関としてのマニュアルの作成が事業継続計画 (business continuity plan: BCP) の上からも必要である。

キーワード 産業保健活動, 医療崩壊, メンタルヘルス, 医療従事者

はじめに

最近のわが国では、医療従事者の労働環境が社会的に問題となっている¹⁾。平成16年の新臨床研修医制度の導入を契機に、大学の医師数が減少し、大学の医師派遣に依存していた市中の病院における医師の定員割れ等が勤務医に過酷な労働を強いている。また、過酷な労働や医療事故に対する警察の介入などが若い医師の診療科選択に影響し、小児科医、産科医の減少に拍車をかけている。また、看護師についても、早期退職、医療過誤等の問題に加え、爪の

看護ケアと主張する行為が刑事告発され、第一審でつめはがし傷害と認定された。このような状況の中で、医師や看護師のストレスが増加し、勤務医の開業医転向、うつ病の発症、最悪の場合、自殺する事例が増加している。ここでは、医療崩壊を防ぐために、メンタルヘルス対策を中心に、産業保健活動から何ができるかを報告する。

医師のメンタルヘルス

①医師の労働環境、②制度的負担 (医療費抑制、

福岡産業保健推進センター

別刷請求先：織田 進 福岡産業保健推進センター

〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南2-9-30 福岡県メディカルセンタービル1F

(平成21年4月7日受付, 平成21年7月10日受理)

What can Occupational Health Activities do for Prevention of a Crisis in the Medical Service?

Susumu Oda, Fukuoka Occupational Health Promotion Center

Key Words: occupational health activities, crisis in medical service, mental health, health care workers